

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	和光市児童発達支援センターやまぼうし（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	7年 2月 1日		7年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30人	(回答者数) 25人
○従業者評価実施期間	7年 2月 20日		7年 3月 18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	7年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者アンケートの結果から、お子さんの安心感や事業所の支援に対する満足度について一定の評価を得ていると捉えています。相談がしやすいとの評価も多くいただいています。	保護者の様々な悩みに向き合えるように関係性の構築を大切にしています。	機能訓練の専門職を採用するなどして、さらにスタッフの充実をさせて様々な子どもたちの特性に対して、適切な支援ができる体制を整えたいと考えています。
2	毎日の個別療育の時間を設けており、療育内容についても日々改善を加えています。保護者の皆様からも日々の様子から個別療育の結果が出ているとお言葉をいただいています。	子ども達の発達特性に合わせて集中ができる環境を整えるように部屋の内装などの構造化に努めています。	午後の時間にも個別療育の受け入れをするなど、今以上に児童の受け入れ態勢の強化と充実に取り組みたいです。そのため職員の採用と定着、研修の充実にも努めてまいります。
3	法人内の広いネットワークを利用して、事業所単体以上の社会資源をもって子ども達や保護者の方のサポートをしています。	子どもたち一人一人の思いや意欲を大切にしながら、その子の特性に寄り添った支援、活動プログラムを計画し、実施していきます。	専門的な視点からの個別療育のプログラムを強化するのみならず、子どもたちが毎日楽しく通いたいと思える活動をたくさん取り入れていきたいです。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子ども建と関わる機会がなかなかもてないので、他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、保育園、幼稚園などの交流イベントを継続的に行なうようにしていきます。	職員のモチベーションや施設に通ってくる子ども達の発達特性の多様さに対して、研修機会がまだまだ十分ではないと考えています。	法人内部・外部の講師を招聘して、職員集団としてのスキルアップをはかっていきたい。専門職についてもこれまで以上に採用に力をいれ、より重層的な支援ができるよう事業所全体としての専門性を高めていきたい。課題や困難に悩んでいる保護者に対しても、適切な助言等ができるよう職員全員が研修を重ねて参ります。
2	職員アンケート・保護者アンケートの結果から家族支援や活動プログラム、マニュアル関係などの周知に課題があると捉えています。情報発信については、SNSなどの活用も検討をしていきたいと思っています。	人手不足の影響もあり、既存の取り組み以外にことになかなか挑戦できてこなかった。今後は採用や業務分担の見直しにより力をいれ、積極的に新しい取り組みができるような体制を整えたいです。	安全計画や避難訓練の報告など、日常の活動以外にも必要な事柄について保護者向けのたよりなどで頻りに連絡を出せるようにする。保護者会などの機会を定期的にもうけ、情報発信と連携強化に努めるほか、親同士の交流も促進していく。
3	保護者会などのイベントがもっと開催できたらよいと考えています。中核的支援施設としての機能もさらに充実させる必要があると考えています。	職員の高齢化が進んでおり、PC・タブレットの使える職員数が少なくなっています。ICT化が進む中、Word、Excel、PowerPointのP Cツールやタブレット等の使える職員に仕事が集まってしまう状況にあります。	他の事業者との連携や、保育園、幼稚園との交流、保護者会の開催など、より地域に開かれた施設にしていきたい。今後、情報交換会や学習会などを積極的にオーガナイズしていく。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	和光市広沢児童発達支援センター やまぼうし					
					公表日 2025年3月24日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係が適切であるか。	○		多機能型施設であり、放課後等デイサービスの長期休みの時には、部屋の使い方を話し合って使うようにしている	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			R6年度から個別療育に力を入れてきた。1対1の対応が必要なので、職員数の確保が求められています。体制を考えながら行っています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		子どもの生活空間には、子どもの目に入るものは、最低限にしているなどの配慮をしています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		できるだけ工夫をして、子どもの活動に支障をきたさないようにしています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		空いている部屋などを工夫して、子ども達が使えるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		療育終了後に職員が集まって話し合いを行っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者から出されたことについては、職員間で共有し、内容によって改善するようにしています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		責任者会議、団会議を定期的に行い、出された点については議論し、改善する手立てを取っています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		検討し、今後行わなければと考えています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			定期的に行っていますが、少ないとも思いますので、新年度に年間計画を立てて行うよう話し合っています。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		公表しております。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		保護者との面談でアンケートやアセスメントを行い作成するようにしています。不十分もあるので重要していきたいと思います。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			不十分さも感じていますので、今後さらに議論を重ねていこうしたいと思います
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画に沿った支援を行うようにしています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○		今後、検討していきます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		実行しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		担当クラスの職員で話し合って立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		個別療育を行っているが、一人ひとりの発達に即した内容で取り組んでいます。	小集団療育のプログラムの充実をする必要があるため、検討している。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。		○		個別支援計画の中に、分けて記載していませんが、考察して支援計画を作成しています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		○	朝のミーティングで確認を行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	支援終了後に、個別療育や小集団療育での様子をだしあい、気づきを出し合うようにしています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。		○	HUGを導入し、保護者への療育内容の公開やケア記録をしっかりとっています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。		○	3か月、6か月のモニタリングを行い、その内容を職員に伝えるようにしています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。		○	児発管だけでなく、クラス担当も参加してもらうようにしています。医療的ケア児については、看護師にも同席してもらう	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○		不十分だと思いますので、今後関係機関との連携を図っていききたいと思います。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	保護者への丁寧な説明を行い、相談にも乗っています。特に、幼稚園入園、就学に向けての相談などに乗るようにしている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			文書で情報共有を行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。		○		今後検討していきます。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。		○		やっていますが、不十分で、今後力を入れていきたいと考えます。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。		○	代表が参加しています。話された結果の共有が弱いと思います。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		保護者の希望もありますが、なかなか実現することができません。今度検討しなければなりませんと思います。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。		○	お迎え時に丁寧に説明をしたり、保護者通園の時に懇談するようにしています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		今後計画を行っていきます。保護者向けの学習会を行う予定です。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		○	契約時に説明をするようにしています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		○	できるだけそうするようにしています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。		○	1項目ごとに説明を行い、同意を得ています。その際保護者の思いを引き出すように話をします。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		○	お子さんへの関わり方などで悩んでいる時に声をかけ、時間をつくるようにしています。クラスから要請がくることもあるので応じます。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会を持って、療育計画などを説明する機会を持っています。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		できるだけ迅速に行うようにしています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		児発たよりを毎月発行し、療育の様子や予定などを伝えるようにしています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		十分に注意をしています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		情報伝達の漏れを防ぐために、職員間の共有をしっかりと行うようにしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		社協などと共催で、子ども食堂などを開き、センターのことを知ってもらっています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		行っています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		看護師が、子どもの状況を把握し、職員と共有しています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		管理栄養士が、その子の状況を把握し、指示書の提出をお願いしています定期的に観察も行っています	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		行っています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		行っています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		所長、児発管に報告し、文書の提出をしてもらっています。その後報告をして再発防止を検討します。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修会を行っています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		これまでありません。契約時に説明しています		